

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果及び改善について

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、4月に6年生を対象に行いました全国学力・学習状況調査の結果について、全国と本校の調査結果を比較する等、分析を行い、本校の課題と改善の方向についてまとめましたのでお知らせいたします。

調査結果及び分析から見える課題は、学校全体のものと捉え、今後、全学年を通じて授業改善に努めて参ります。

【国語】 調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【内容】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

◆全国平均を下回っている。

「情報の扱い方に関する事項」

◆全国平均を下回っている。

「我が国の言語文化に関する事項」

◇全国平均を上回っている。

「話すこと・聞くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「書くこと」

◆全国平均を下回っている。

「読むこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

→学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うこと。

→情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

→自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること。

→目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができること。

→目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができること。

→当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使う学習活動の充実。

→複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだり図示することによって、考えを明確にしたり、思考をまとめたりする学習活動の充実。

→インタビューをする前に、相手に聞くことを具体的に考え、関係する材料を整理するなど、目的をもって相手に質問をする学習活動の充実。

→「何のために文章を書くのか」という目的をもち、その達成のために「何を書きたいのか」を整理し、書く内容の中心を決める学習活動の充実。

→複数の資料を結び付けて読む学習活動における、それぞれの資料にある、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結びつくのか視覚的に明らかにしながら読む活動の充実。

【算数】 調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

【領域】

「数と計算」

◆全国平均を下回っている。

「図形」

◆全国平均を下回っている。

「測定」

◆全国平均を下回っている。

「変化と関係」

◆全国平均を下回っている。

「データの活用」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

今回の調査における課題

→異分母の分数の加法の計算をすることができること。
($1/2 + 1/3$)

→基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できること。

→はかりの目盛りを読むことができること。

→伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できること

→簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができること。

改善の方向

→異分母の分数の加法を考える学習の際に、単位分数のいくつ分という分数の意味を振り返ったり、異分母の分数を同分母の分数に直すことを図で確認したりする活動の充実。

→多角形の面積を求める学習の際に、分割した図形が本当に基本図形になっているかどうかを調べたり、どの長さを用いて面積を求めたのかを明らかにしたりする活動の充実。

→最小目盛りの大きさが異なるはかりを用いて重さを測定する学習活動に際し、例えば、0gから100gまでが何等分されているのかに着目し、一目盛りが表している重さを捉える活動の充実。

→絵や図を用いて、問題場面を把握し、調べたい数量と依存関係にない数量を整理する学習活動の充実。求め方を式や言葉の式に表す学習活動の充実。

→表の数値の大小を見付ける学習の際に、表のどの部分に着目するのか線で囲み、結論の根拠となる数値を読み取る活動の充実。

本校の概要

【領域】

「エネルギー」を柱とする領域

◆全国平均を下回っている。

「粒子」を柱とする領域

◆全国平均を下回っている。

「生命」を柱とする領域

◆全国平均を下回っている。

「地球」を柱とする領域

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

今回の調査における課題

→電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることの知識が身に付いていること。

→水が氷に代わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができること。

→ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いていること。

→発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができること。

→赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができること。

改善の方向

→電磁石の強さは、電流の大きさや動線の巻数によって変わることを考察する際に、「巻数を増やす」などの条件を表す言葉や、「電磁石が強くなる」などの減少を表す言葉を使い分けて説明する学習活動の充実。

→学習のまとめの際に、学習したことを自然の事物・現象や生活の場面に当てはめて理解を深めたり、役立っていることを捉えたりする学習活動の充実。

→花のつくりを観察するときに、図鑑などと照らし合わせておしべやめしべの部位と名称説明する学習活動、さらに、複数の種類の花を観察し、その共通点としておしべとめしべを見付ける学習活動の充実。

→実験に関するすべての条件を明確にした上で、どの条件を変える必要があるのかを検討したり、他の条件はすべて同じになっているかを図や表に整理して確認したりする学習活動の充実。

→結果を基に考察する際に、表やグラフなどに整理し、結果を比較したり、複数の結果から多面的に考えたりして、自分の考えを表現する学習活動、さらに、根拠となる結果を具体的な数値などを用いて表現する学習活動の充実。

【児童質問調査の結果の概要】

《人間尊重の教育に係る質問》

自分にはよいところがあると思う子どもの割合は、全国平均より6.6ポイント下回っているが、**4.9ポイント増加**している。

| | 本校 | 全国 |
|-------|-------------|------|
| 令和5年度 | 84.6 | |
| 令和6年度 | 75.4 | |
| 令和7年度 | 80.3 | 86.9 |

学校に行くのは楽しいと思う子どもの割合は、**6.1ポイント増加**しており、全国平均より3.2ポイント上回っている。

| | 本校 | 全国 |
|-------|-------------|------|
| 令和5年度 | 91.4 | |
| 令和6年度 | 83.6 | |
| 令和7年度 | 89.7 | 86.5 |

◇「自分が最高の宝物ならば、隣にいる友だちも最高の宝物である」という人間尊重の精神を教職員も子どもも大切にしてきた成果が表れてきていると考えられる。今後も「**徹して一人を大切に**」を合言葉に、安心・安全な学級・学年・学年風土の醸成・子どもたちの心理的安全性を保障し、子どもたちの「**学ぶ力**」と「**自己肯定感・自己有用感**」を育成していく。

《さっぽろっ子自主的な活動に係る質問》

学級活動における学級での話し合いを生かして、**今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる**と回答した子どもの割合は、前回調査と比べ、**4.9ポイント増加**しており、全国平均より0.5ポイント上回っている。

| | 本校 | 全国 |
|-------|-------------|------|
| 令和5年度 | 67.4 | |
| 令和6年度 | 76.4 | |
| 令和7年度 | 81.3 | 80.8 |

あなたの学級では、**学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている**と思う子どもの割合は、全国平均より4.8ポイント下回っているが、**10.3ポイント増加**している。

| | 本校 | 全国 |
|-------|-------------|------|
| 令和5年度 | 72.1 | |
| 令和6年度 | 68.2 | |
| 令和7年度 | 78.5 | 83.3 |

◇集団づくりや社会のためによりよい方法を、子どもが考えることを大切にする「さっぽろっ子自主的な活動」を推進してきた成果が表れてきている。今後も、**さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づいた自主的な活動**を推進していく。

◇学校生活をよりよくするために、各教室で**学級会**を充実させた成果が表れている。

◇子どもたちの自主的な活動について、**①子ども可能性を信じ抜き、②ありのままを受け入れながら、③励まし続け、④どこまでも支えながら、⑤心をつないでいく**関わりを今後も続けていく。

《課題探究的な学習に係る質問》

〈主体性〉の視点

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う子どもの割合は、全国平均より5.6ポイント下回っているが、昨年の調査と比べ、**1.1ポイント増加**している。

| | 本校 | 全国 |
|-------|-------------|------|
| 令和5年度 | 75.9 | |
| 令和6年度 | 73.6 | |
| 令和7年度 | 74.7 | 80.3 |

〈協働探究〉の視点

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した子どもの割合は、全国平均より1.2ポイント下回っているが、昨年の調査と比べ、**5.3ポイント増加**している。

| | 本校 | 全国 |
|-------|-------------|------|
| 令和5年度 | | |
| 令和6年度 | 85.4 | 91.6 |
| 令和7年度 | 90.7 | 91.9 |

〈リフレクション（振り返り）〉の視点

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う子どもの割合は、昨年の調査と比べ、0.8ポイント減少しており、**全国平均より8.4ポイント下回っている**。

| | 本校 | 全国 |
|-------|-------------|------|
| 令和5年度 | 75.9 | |
| 令和6年度 | 71.8 | |
| 令和7年度 | 71.0 | 79.4 |

〈自分の考え〉の視点

授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したと思う子どもの割合は、全国平均より0.4ポイント下回っているが、昨年の調査と比べ、**13.6ポイント増加**している。

| | 本校 | 全国 |
|-------|-------------|------|
| 令和5年度 | 52.9 | |
| 令和6年度 | 54.6 | 67.6 |
| 令和7年度 | 68.2 | 68.6 |

〈算数に係る質問〉

| | 本校 | 全国 |
|--|-------------|------|
| 算数の勉強は得意ですか。 | 43.0 | 60.3 |
| 算数の勉強は好きですか。 | 45.8 | 57.9 |
| 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。 | 54.2 | 65.5 |
| 小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか。 | 58.9 | 80.6 |

- ◇児童一人一人が、「**自分の頭で考え、挑戦していく**」課題探究的な学習を推進してきた成果が表れてきている。今後も、子どもたちの学びを「**励まし続け、どこまでも支えていく**」関わりをしていく。
- ◇見通し→行動→振り返りといった反復的な学習プロセス（AARサイクル）になるように、児童による**振り返りを、次の学習につなげていく学習**を推進していく。
- ◆算数においては、学び合いの場面で、**どのように考えたのかについてどの子も説明できるように**、ペア交流を行うなど学習形態を工夫することで、意味理解を伴った学びにしていく。

《ICTの活用に係る質問》

| | 本校 | 全国 |
|---|------|------|
| タブレットなどで文章を作成(文字、コメントを書くなど)することができると思う。 | 88.8 | 81.8 |
| インターネットを使って情報を収集(検索する、調べる)することができると思う。 | 93.5 | 89.8 |
| タブレットなどを使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思う。 | 84.1 | 69.3 |
| タブレットなどを使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思う。 | 81.3 | 76.7 |

◇どの設問においても、全国の状況を上回っている。特に、**情報を整理すること**については、全国平均より **14.8 ポイント上回**っており、収集した情報を ICT 機器を使って、どのように整理、分析するとよいかについて指導した成果が表れている。

◇今後も子ども一人一人が自分の**学びをデザイン**し、**考え続ける頭の体力を育成**する過程において、**効果的に ICT 機器を活用**していく。

【調査結果の活用について】

【今後の取組】

☆引き続き「**徹して一人を大切に**」を合言葉に、安心・安全な学級・学年・学年風土の醸成・子どもたちの心理的安全性を保障し、子どもたちの「**学ぶ力**」と「**自己肯定感・自己有用感**」を育成していく。

☆子どもたちの自治的な活動について、**①子ども可能性を信じ抜き、②ありのままを受け入れながら、③励まし続け、④どこまでも支えながら、⑤心をつないでいく**関わりを今後も続けていく。

☆見通し→行動→振り返りといった反復的な学習プロセス（AARサイクル）になるように、児童による**振り返りを、次の学習につなげていく学習**を推進していく。

☆算数においては、学び合いの場面で、**どのように考えたのかについてどの子も説明できるように、**ペア交流を行うなど学習形態を工夫することで、意味理解を伴った学びにしていく。

☆今後も子ども一人一人が自分の**学びをデザイン**し、**考え続ける頭の体力を育成**する過程において、**効果的に ICT 機器を活用**していく。